

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析と改善の取組について

### 1 教科（国語科・算数科・理科）に関する調査より

#### 〔全般的傾向〕

今年度の氷丘小学校の平均正答率は、国語科・理科は全国平均をやや上回り、算数科は全国平均同等の結果となりました。3教科とも、基礎・基本の定着はある程度ありますが、活用する段階でつまづいている傾向がみられたり、選択解答に比べ記述解答を苦手にしていたりする傾向がみられました。

#### 〔学習指導の改善・充実〕

##### 【国語科】

- ①話の内容の問題点や解決方法を明確にするため、文中の言葉を引用し、問題に沿った条件を取り入れ、友だちの考えと比較しながら自分の考えを書きまとめる学習活動をより一層深めていく。
- ②物語を読み、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。そのために、詩や物語、伝記などを読み内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝えたりする。
- ③伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見つけたり、言葉で表現したりする指導に力を入れる。さらに、お互いの文章を読み合うことで、相手の文章のよさに気づき、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かせるようにする。

##### 国語科のまとめ

- (1) 互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力をつけさせる。
- (2) 文章に対する感想や意見を伝えあい、自分や友だちの文章の良いところを見つける力をつけさせる。
- (3) 人物像や物語の全体像を具体的に表現したり、表現の効果を考えたりする力をつけさせる。

##### 【算数科】

- ①適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見い出し、表現できるようにする。
- ②割合の表し方を理解し、百分率を求めたり、用いたりするようになることが重要である。例えば、飲み物の量をもとにしたときの、果汁量の割合を分数で表す活動において、割合の25%は、基準値を100とすると、比較量は25に当たることから、25%を $\frac{25}{100}$ と表すことや、基準量100としてそれに対する割合を表す方法に百分率があり、基準量を1としてそれに対する割合を表す方法に小数や分数などがあることも理解させる。  
また、果汁を含む飲み物を同じ量に分けたとき、濃度は変わらないことを普段の生活の中で知る必要がある。例えば同じものを2つに分けても味の濃さは変わらないこと実感させる。

- ③図形を構成する要素に着目し、図形の意味を理解したり、図形の性質を確かめたりすることを確実におさえる。示された作図の手順から、どのような図形ができるかを判断したり、作図の手順を基に、辺の長さや角の大きさなどからどのような図形ができるかを考えさせたりすることで、図形の性質の理解を深める。
- また、立体図形について考える場面で、角柱や円柱を構成する要素である頂点や、辺、面の個数や形を捉えやすくするために、ICT 機器を効果的に使用する。

### 算数科のまとめ

- (1) 目的に合った数の処理の仕方考える力をつけさせる。
- (2) 基準量、比較量、割合の関係について理解する力をつけさせる。
- (3) 伴って変わる2つの数量の関係に着目し、未知の数量を求める力をつけさせる。

### **【理科】**

- ①知識を相互に関連付けて、より深く理解するために、主体的な問題解決を通して知識を習得し、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連づけて説明できるようにする。例えば、光の進み方に関する問題について、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、主体的に問題解決をする中で、はね返した日光が直進することを捉え、それについて説明するような学習をする。
- ②問題を解決するまでの道筋を考え、解決の方法を発想できるようにするには、予想や仮説を基に解決の方法を発想する際に、結果を見通すことができるようにする。そのために、問題に対して根拠のある予想や仮説を立てるだけでなく、自分の考えと異なる友だちの考えも捉え、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して、解決の方法を考え、観察、実験を行うようにする。
- ③知識をより深く理解できるようにするには、主体的な問題解決を通して知識を習得し、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直すことができるようにする。また、問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定し指導することが大切である。例えば、水の状態変化について課題を見出し、課題を解決する中で習得した知識を活用して、冷たいコップに付着した水滴について動画や写真を用いて捉え直し、理解を深める学習活動を取り入れる。

### 理科のまとめ

- (1) 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や友だちの気づきをもとに考え、課題を見出す力をつけさせる。
- (2) 観察・実験などで得た結果について分析、解釈し、よりよい考察を導き出す力をつけさせる。
- (3) 知識と事象を相互に関連づけて、より深く理解する力をつけさせる。

本校の学習「今後の研究体制について」

課題に対する具体的な取組を「四部会」「研究推進委員会」「学年会」で検討する。特に「書く力」を伸ばすための具体的な方策 ICT 活用場面の整理と蓄積が必要である。

## 2 質問紙調査より

### 【TV ゲーム・スマートフォン・携帯式ゲームの使用】

△1日4時間以上が14% 1日3時間以上4時間未満が13%

学校でも適切な使用は指導していくが、家庭においてもルールづくりが必要である。

### 【生活習慣に関して】

○90%強生活習慣は良好という結果となっている。

### 【教科に対する興味関心】

○「国語/算数/理科の勉強が好き」と回答した児童の割合が6割弱で、それらが大切で将来役に立つと考えている児童の割合が8割を超える。(国語・算数に関しては昨年度と同様)

肯定的な回答をした児童の方が平均正答率が高い傾向あり。  
『好き』⇔『自ら学びに向かう』の好循環→どちらがきっかけになってもよい。  
学校では、児童が興味・関心をもつような授業の工夫をしていく。

### 【主体的・対話的で深い学びに関して】

○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」の質問に対し肯定的な回答は8割

学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。肯定的な回答が8割以上と高い。

△『どちらかといえば・・・』の中間層と否定的な回答2割の児童への指導

△総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導

△学級会等の特別活動で、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できる指導や一人一人の児童が意思決定できるような指導

誰もが意見を言いやすく且つ友だちの意見を認めることができる学級づくりを行う。

### 【ICTの活用に関して】

○授業でのICT活用の程度が「週1回以上」が9割、「週3回以上」が5割。

どの教科でも適切なクロームブックの使用が求められている。GIGAスクール構想1年目ということもあり、今後職員研修などで学び、更なる適切な使用に努めていく。

授業時数に限りがあるため活用が難しい現状があるのも事実、調整と工夫が課題である。

### 【自己肯定感に関して】

○「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をした児童の割合が9割強

日々の生活や学校生活の中で、自己肯定感を育ていく重要性⇒教師や友だちとの対話 家庭との連携・協力が必要である。

### 【達成感に関して】

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と肯定的な回答をした児童の割合が9割強

### 【挑戦心に関して】

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」と肯定的な回答をした児童の割合が8割強

肯定的な回答をした児童ほど、授業で学んだことをほかの学習に生かそうとする。また、国語、算数等の学習においても、主体的な姿勢がみられる傾向がある。

学力の重要な3つの要素は、基礎的・基本的な知識・技能と、その知識・技能を活用し自ら考え判断し表現する力、そして学習に取り組む意欲である。

加古川市では、この基礎的・基本的な知識・技能を「できる学力」、知識・技能を活用し自ら考え判断し表現する力を「わかる学力」と捉え、この「できる学力」「わかる学力」をバランスよく伸ばしていくことにより確かな学力の育成を図ろうとしている。

本校においても、本年度の全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて更に授業改善を行い、学力の向上に努めていく。